

第 20 回 世界学生サミット(ISS) 報告書

応用生物科学部・農芸化学科・3年 高橋 美百合

2年前に農大で開催されたISSを観て、学生たちが熱心に議論する姿に感銘を受けてから、「私もあんな人たちになりたい。」と僅かながら思い続けていました。そして、今回のISSがオンラインで開催されることを知り、英語に不安がある一方で、世界中の学生と交流して意見を共有したいと思い応募しました。合格を頂いたときは大変驚きましたが、二度とないこの機会に感謝し、Marvinと共にジェネラルチェアパーソンを務めました。

ジェネラルチェアパーソンとは、総合座長であり、議論で司会進行をするチェアパーソンを統括する非常に重要な役割です。私は英語が流暢でなく、チェアパーソンとも上手く話せるのか不安でしたが、トレーニングが始まった6月から練習を重ね、更なる英語力向上の必要性を痛感しつつも楽しく活動していました。トレーニングでは、CGIの開催しているEnglish Cafeの進行から始まり、ISSで利用したAIRMEETやSlack、GOOCUSなどのオンラインプラットフォームの使い方の説明や、農大生のプレゼン練習をZoomで行いました。その都度、スケジュール調整やメール連絡を含めISSの運営としてCGIと学生の架け橋として活動していました。また、グループミーティングではプレゼンターの発表に向けてサポートし、それぞれの研究について理解を深められました。毎回2時間以上かかりハードであった上、初めは進行や説明、時間の管理なども難しかったですが、Marvinのサポートもあり、練習を積んでいくうちに慣れ、英語力も向上していきました。

今回は、完全オンラインであったため、議論の場以外で交流することは少なかったことが残念でしたが、参加者は議論に参加する前にプレゼンビデオをみることで十分内容を理解することができたと思います。さらに、オンラインではチャットに書き込みやすいため、多くの質問が寄せられ、より多くの考えを共有できる活発な議論を交わすことができました。世界中の学生が意志を持って議論しあう姿はとてまかこよく、また、議論で出てきた重要なキーワード「若者の参加」「啓発活動」「コネクションの強化」「経済的多様性の受容」「教育システムの再構築」「技術革新」「地域で適応できる研究」は共通の認識であり、世界共通であることを実感しました。

ISSのような、世界中の学生が集って意見を交わし合う会談は恐らく他の大学ではないので、この経験をできたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私自身、力不足ではありましたがCGIの方、先生、ISSに参加した学生を始めとした周りの温かいサポートのお陰で、成功することができました。この経験を生かして、これからも挑戦する勇気と精神力、周りへの感謝を忘れずに、国際的な活動に積極的に携わり、理想の自分へと近づいていけるよう努めてまいります。そして、力不足であった悔しさを忘れず、さらに勉強に励み、経験を積み、私をサポートしてくれた人々への恩返しの気持ちを

